

概要

学生がインフォグラフィックの分析を行うための素材作成をお願いいたします。課題の試験では広告やポスター、漫画、写真などの作品が、その目的を伝えるために要素をどのように効果的に使用しているかを分析します。その練習問題の一つにインフォグラフィック広告を素材として用いたいと思います。

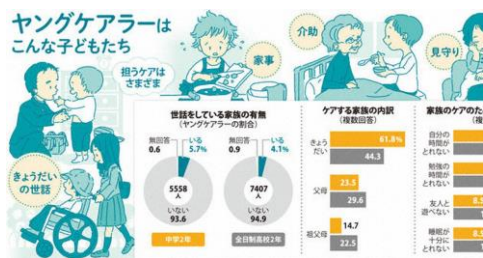
目的	・啓発と意識向上 「ヤングケアラー」を周知し、読者ができることを考え実行していくことを意識付け、啓発する。 ・サポート体制 「ヤングケアラー」に対し友人、大人や学校などの組織がどんな支援や協力が必要か伝え、その支援の構築や改善を促す。
ターゲット	小学生～高校生および学校関係者（含保護者）
仕様	A4 サイズ程度
コピー	「いつもいっしょに遊ばへんけど、なんかあるん？」 声を、きいてみよう
その他	「ヤングケアラー」の周知と支援や協力を促す目的です。このターゲットの中には、自分自身がヤングケアラーであることを自覚していない児童生徒も含まれています。ヤングケアラー自体が問題なのではなく、若くして家のために時間を割いてしまったがために構築できない友人関係や勉強時間の確保、精神的な負担が課題です。 自分自身がヤングケアラーであるか自認することや、友人や知人がヤングケアラーであることを認識することも大切ですが、家族や親族のサポートをすることで、学業とのバランス、社会的な孤立、心理的なストレスを負っていた場合、どんなことが取り組めるか考えることが重要です。

記載データ

★「ヤングケアラー」とは何かわかりやすいイラスト

- ・弟・赤ちゃんの世話をしている小学生
- ・寝たきりになっているおじいちゃんおばあちゃんを助けている中学生
- ・家計簿をつけている高校生

イメージ例：



★家族の世話をしている割合

- ・小学生約 15 人に 1 人 (6.5%)
- ・大学生約 16 人に 1 人 (6.2%)

★大学生は家族のどんな世話をしているか

- ・炊事、洗濯、掃除 63.3%
- ・見守り 43.4%
- ・感情のサポート 31.4%
- ・買い物や散歩の付き添い 28.0%
- ・働いて家計を助ける 10.3%

★家族の世話による影響（小学生）

- ・欠席 24.7%
- ・遅刻早退 22.9%
- ・授業中に寝てしまう 11.4%
- ・宿題ができていない 15.2%
- ・友達と遊ぶ時間が少ない 19.3%

★必要としている支援 TOP3

小学生

- 1 位：自由に使える時間がほしい 15.2%
- 2 位：勉強を教えてほしい 13.3%
- 3 位：自分のいまの状況について話を聞いてほしい 11.9%

大学生

- 1 位：将来の相談に乗ってほしい 28.3%
- 1 位：学費への支援 28.3%
- 3 位：自由に使える時間がほしい 26.2%
- 4 位：自分のいまの状況について話を聞いてほしい 21.7%

－参考（[こども家庭庁ヤングケアラーについて](#)）

－出典（[株式会社日本総合研究所「令和 3 年度 ヤングケアラーの実態に関する調査研究」](#)）